

# ろうさい病院便り

第63号

令和8年1月1日号広報ちらら台へ掲載しました

## 肌トラブルに早めの対処を ～帯状疱疹やアトピーのサインを見逃さない～

千葉ろうさい病院  
皮膚科副部長 熊田 大樹

みなさん、肌の異変に気づいた時、「そのうち治るだろう」と放置していませんか？実はちょっとした変化が重大な皮膚疾患のサインであることもあります。

帯状疱疹は、子供の頃にかかった水痘（水ぼうそう）のウイルスが体内に潜み、疲れやストレス、加齢などで免疫力が落ちて再活性化することで発症します。ピリピリとした痛みや赤い発疹が体の片側に帯状に出たら要注意です。発症早期に抗ウイルス薬を服用すれば、重症化を防いだり、神経痛の後遺症の可能性を低くできます。任意接種は50歳から、2025年度からは65歳から定期接種が可能となりましたのでぜひワクチン接種をご検討ください。

アトピー性皮膚炎は、痒みと湿疹を繰り返す病気です。バリア機能が低下した肌は乾燥しやすく、ちょっとした刺激で悪化します。特に冬は乾燥で悪化しやすいので、保湿を徹底しステロイド外用薬を含む軟膏を上手に使うことで快適な日常生活を取り戻せます。

近年は生物学的製剤やJAK阻害薬を用いた治療も行われており、患者さん一人一人に合わせた治療法が選択できるようになってきています。

「様子を見よう」ではなく、「早めに相談しよう」という気持ちでご相談いただくことが皮膚疾患の治療の第一歩です。

肌のSOSに是非私たち皮膚疾患のエキスパートをお頼りください。

ろっさい  
病院便り  
第63号

肌トラブルに早めの対処を  
～帯状疱疹やアトピーの  
サインを見逃さない～

千葉ろうさい病院  
皮膚科副部長 熊田 大樹

みなさん、肌の異変に気づいた時、「そのうち治るだろう」と放置していませんか？実はちょっとした変化が重大な皮膚疾患のサインであることもあります。

帯状疱疹は、子供の頃にかかった水痘（水ぼうそう）のウイルスが体内に潜み、疲れやストレス、加齢などで免疫力が落ちて再活性化することで発症します。ピリピリとした痛みや赤い発疹が体の片側に帯状に出たら要注意です。発症早期に抗ウイルス薬を服用すれば、重症化を防いだり、神経痛の後遺症の可能性を低くできます。任意接種は50歳から、2025年度からは65歳から定期接種が可能となりましたのでぜひワクチン接種をご検討ください。

アトピー性皮膚炎は、痒みと湿疹を繰り返す病気です。バリア機能が低下した肌は乾燥しやすく、ちょっとした刺激で悪化します。特に冬は乾燥で悪化しやすいので、保湿を徹底しステロイド外用薬を含む軟膏を上手に使うことで快適な日常生活を取り戻せます。

近年は生物学的製剤やJAK阻害薬を用いた治療も行われており、患者さん一人一人に合わせた治療法が選択できるようになりました。

「様子を見よう」ではなく、「早めに相談」という気持ちでご相談いただくことが皮膚疾患の治療の第一歩です。

肌のSOSに是非私たち皮膚疾患のエキスパートをお頼りください。

ろっさい病院無料送迎バス

バス停に便利な無料バスを運行しております。  
（ろっさい病院で乗車または降車される方に限ります）

詳細は、ちはら台自治会連合会のホームページをご覧ください。

自治会HP

